



森のなかま

2025年 1月号

NO. 199 (継続344号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

かながわ森林インストラクターの会の皆様

理事長 黒川敏史

あけましておめでとうございます。

2025年が始まります。今年もよろしくお祈いします。

昨年2024年を振り返りますと、新年元旦の能登半島地震に始まり、豪雨による洪水被害など災害の多い1年でした。一方、スポーツ界ではパリオリンピックでの盛り上がり、大谷選手の大リーグでの活躍など明るいニュースもありました。

さて、我々インストラクターが関与している森林に目を向けると、昨今の豪雨災害や、農作物の生育不良など地球温暖化への関心が高まる中で、森林の役割の再認識を通じて企業・学校の森林教育・体験への参加ニーズが高まってきております。県に登録されている森林再生パートナー企業(これら企業の森林作業などの指導、案内のため、我々森林インストラクターに派遣要請が出ます)の数は、このところ増え続けています。また学校教育の中でも環境教育、SDGs教育の座学だけでなく体験が大切ということで、実際森に入るプログラムも増えてきました。このような事情によりわれわれかながわ森林インストラクターの会メンバーの活躍の場、機会が増え続けており、今後も増えていくことが予想されます。

2023年度のインストラクター派遣の実績をまとめると、(NW派遣管理部集計による)

- ・県民参加の森林づくり活動 活動数19回 派遣インスト数295名 参加者数1121名
- ・NW活動企業等 活動数77回 派遣インスト数526名(下見含む) 参加者数4411名
- ・NW活動学校 活動数15回 派遣インスト数117名(下見含む) 参加者数1024名

のように、1000名近いインストラクターを派遣し、約6500人の参加者に森林体験をしてもらいました。ありがとうございました。当会員総数は約250人ですので、平均4回/1人以上の派遣ということになります。しかし、活動参加の会員は、150人程度という集計もあり、参加いただいているインストラクターが、一部に偏っている問題があり、早急に改善していかなければなりません。平均活動数を参考にして、メンバーの皆様の積極的な応募をお願いします。募集はおおむね、県民参加の森林づくりは、年1回(2月)、NW活動は、随時募集がかかります。いずれも会報(別冊)に記載しますので、会報のチェックをよろしくお願いします。詳細はNW派遣管理部にお問い合わせ願います。

2024年度のトピックスとしては、総会でも審議しましたが、メリット、デメリットを議論し認定非営利活動法人の「認定」を返上することにしました。

11月末には、18期生の養成講座が無事修了し、27名の方がインストラクターの会新メンバーに加わりました。18期の方々にはさっそく県民参加やネットワークで活躍していただいています。

最後に皆様へのお願いです。各種活動への応募を積極的にお祈いします。

活動時には参加者の安全確保はもちろん、自分の安全を守る行動をお祈いします。

今年も一年よろしくお祈いします。

以上

【森林技術部会主催】間伐研修会②

日時：令和 6 年 9 月 29 日（日）9:00～15:00 曇り

場所：大野山トチヤの森班活動森林

講師：滝澤⑤、石井⑬、中澤⑯、高谷⑰、統括岩田⑭

参加者：山崎⑦、上宮田⑪、山口⑫、斉藤⑬、石垣⑮、大見⑮、大森⑯、小林⑯、大谷⑰、野口⑰、三浦⑰、三好⑰、柳沢⑰、小池⑰

森林技術部会の研修会は、お国訛りのラジオ体操から始まります。この日は、津軽三味線の伴奏で青森バージョンです。

研修場所は、大野山の中腹、およそ 1 ha の私有地で 50 年ほど前に植林したスギ林です。斜度 30 度はありそうなり鉢状で、活動地点の標高差も 30m 以上あると思われます。上から見ると、谷へ下りていくオレンジヘルメットが点々と林床に映えていました。足元は、黒い細かいスコリア状でしたが、昨年度からの活動で、間伐材を利用して、インストラクターによって作られたつづら折りの径路が美しく、また上下の移動を助けてくれました。



今回の研修目的は、「県民参加のインストラクターを想定して、大径木、高樹高の間伐の実施、指導が安全にできる」ことです。間伐対象は、劣勢木です。

短時間で一人 5 本を選木して、1 班が選木した木を 2 班が切るといふ仕立てです。劣勢木と言っても樹高は 15m 以上、直径も 20 cm ほどあります。ロープを輪にして、ロープ掛け棒で届く限り高い位置にロープを固定します。間伐研修①と同じように、一人で 1 本の木を作業手順の通りに、伐倒後の処理まで安全に実地、指導できるように進められました。伐倒後の切り口を見ながら、受け口、追い口、ツルを時間をかけて検証しました。活動地のスギは、初期の段階で傷があったのか、幹の中心付近が赤茶色、または腐っているものもあり、スギの材質上、ツルを厚めにとったほうが良い。かかり木では、残す立木を必要以上に傷つけない配慮が必要という指導がありました。

研修後の意見交換では、かかり木を経験するのは良い機会という声もありました。また、伐倒先にシロダモがあったので、ロープで調整して、シロダモをよける配慮をした班もありました。

同じ樹、同じ条件での作業はなく、その時一度きりなので、「間伐」は難易度、危険度が高いがゆえに、人を魅了する作業であることを改めて感じました。林縁の日向にはノボロギクの綿毛が舞い、ランチのひと時、間伐の緊張をほぐしてくれました。

（記 小池 宗子⑰、写真 岩田 典義⑭）



第 18 期神奈川県森林インストラクター養成講座修了、認定証が交付、認定者が当会入会

2024 年 11 月 30 日（土）午後、神奈川県横浜合同庁舎 6 階会議室にて、第 18 期神奈川県森林インストラクター養成講座閉講式および認定書交付式が開催され、18 期養成講座受講修了者 27 名に神奈川県森林インストラクター認定書が交付された。式には当会の黒川理事長が来賓として出席し来賓あいさつを述べた。閉講式に先立って午前には、最終講座として当会スタッフにより (1)神奈川県森林インストラクターの仕事と実施体制 (2)“ネットワーク派遣(企業等・学校)”と“県民参加の森林づくり活動派遣”の説明が行われた。また、かながわ森林インストラクターの会への入会案内と入会手続きも行われ、18 期受講修了生 27 名中 26 名が晴れて当会に入会した。

なお、ボランティア保険付保等の諸手続きはすでに終了し、当日の入会者は 12 月中旬より当会正会員として当会活動への参加が可能となっている。

（記 総務部 野村 昭憲⑭）

活動短信

今回の掲載は R6 年 10 月 16 日から R6 年 11 月 2 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

1 月(睦月)(旧暦 12 月師走)の
二十四節気、七十二候、鳥こよみ

小寒 1/5 大寒 1/20、芹乃栄 (せりすなわちさかう)
1/5~9 芹がすくすく群れ生えるころ。競り合うように群生することから「競り」が芹の名の由来だそう。
鳥こよみ: 初夢は一富士二鷹...。鷹の縁起の理由は諸説あり、その気高く勇壮な風貌は多くの人を魅了します。鷹と鷲の違いについて聞かれることがありますが、明確な区分はなく、比較的大きいものが鷲(eagle)、小さいものが鷹(hawk, falcon)となります。トビはどっち？

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です(200 字程度で、Word、メール直筆は可、Excel は不可)。**写真はなくても構いません**(紙面の都合上最大で 3 枚とします)。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和 x 年 x 月 x 日(曜日)できれば時間と天気も

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラスみどり財団、**看** 看護師

例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、**本文を 400 字前後を目安**として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名=フルネーム+期 もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いします m()m

◆ 明治安田生命×Jリーグの森 ~未来をつむぐ森~ 森林体験研修

日 令和 6 年 10 月 16 日(水) 10:00~15:00 曇り

場 県立 21 世紀の森

参 104 名 (明治安田生命 92 名、Jリーグスタッフ 4 名)
明治安田生命スタッフ 8 名

県 町田主査・秋本臨時主事

ス 弘島様

イ L 上宮田⑩、斎藤⑧、山口⑩、松本⑩、西出⑫、
西岡⑭、牧石⑭、石垣⑮、小林⑯、森本⑰、野口⑰、
田島⑰

東京都心では観測史上 73 年ぶりに 10 月の夏日最多記録が更新された 10 月 16 日(水)、明治安田生命保険相互会社の新社員(営業総合職幹部候補生) 96 名と Jリーグ(湘南ベルマーレ)のスタッフ 5 名が県立 21 世紀の森で森林体験研修をおこないました。前日には森林保全の

意義などの座学を受け、当日はその実践です。カツラの甘い香りが漂う広場での開会式の後、午前は間伐、枝打ち、竹林整備の 3 班に分かれて各々の作業場所へ向かいました。私が担当した竹林整備では急斜面で転倒しないよう足を踏んばり黙々と作業をしていました。

午後 3 班に分かれて、前半約 45 分間は丸太切り&コースター作り、スワッグ作り、マイ箸作り。後半約 45 分間は自然観察をおこないました(順序が逆の班もあり)。自然観察ではガマズミの実を口に含んでみたり、クヌギの葉の爽やかな香りを嗅いでみたり、水を入れたペットボトルにムクロジの樹皮を入れて振って泡立つのを見たりと五感で経験できる自然観察をしました。

参加者にとっては新鮮な経験になったようで、気持ち



のよい汗をかいたとの感想が多く聞かれました。

5 年半後(入社 6 年目)には人事ローテーションで全国の営業所に羽ばたく彼らの活躍を祈念するとともに、森林整備への関心が高まったことを願い、インストラクター一同参加者を乗せたバスを見送りました。

(記 田島 聖一郎⑰、
写真 上宮田 幸恵⑩、
田島 聖一郎⑰)

◆ 株式会社カナエル様 21世紀の森 竹林整備作業

日 令和 6 年 10 月 17 日(木) 10:00~12:00 曇り

場 県立 21 世紀の森 マダケ展示林

参 大人 9 名

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 野口様、黒田様

イ L 岡村⑯、斎藤⑧

昨年に引き続きの竹林作業なので、活動は整然と行なわれました。予定通り神代杉前に集合、県担当者挨拶、インストラクター紹介、



準備体操を行ったのち 2 班に分かれ用具を装着し、移動。途中、成長の森及び無花粉杉の説明しながらマダケ展示林へ向かいました。作業開始前に作業手順「伐採・玉切り・枝払い・集積」の見本を見ていただいた後、参加者が安全な作業スペース及び足場の確保を行い慎重に作業に入りました。作業を淡々と進めていき、作業終了 30 分前には散在していた倒竹等の集積などを行い、エリア全体をスッキリとさせました。作業終了後には各自の用具を落と



(記・写真 岡村 寛⑩)

していないことを確認後移動開始。到着後用具の整備を行い、参加者全員ケガもなく無事に作業を終えることができました。解散前に、来年も引き続き活動を継続していきたいとのコメントがありました。

◆ MHI パワーエンジニアリング株式会社 様

「未来」に繋げる MHI パワーエンジニアリングの活動

- 日 令和 6 年 10 月 19 日 (土) 10:00~15:00 晴れ後曇り
 場 県立 21 世紀の森
 参 16 名
 県 水源環境保全課 藤原主査、黒田主事
 イ L 岡村⑩、西出⑫、小国⑬

MHI パワーエンジニアリング株式会社様は、2019 年 3 月より森林再生パートナーとして神奈川県での森林整備へご支援・ご協力をいただいております。活動は昨年に続き 2 回目となります。



参加者の方は自家用車で順次到着。開会の後、成長の森に移動しスギの「枝打ち」から開始です。昨年参加された方も数名おり、丁寧かつ手際よく作業を進め目標範囲の枝打ちが完了となりました。傾斜地での作業となり疲れたとは思いますが、枝打ち前後の林内の景色が全く違うことから大いに達成感を持っていただいたようでした。

昼食後は「展示室」の見学から再開。その中で、枝打ちを施したスギ・ヒノキ材とそうでない材との比較サン

ルが判りやすく、午前中の作業の意義を再認識していただけました。

次のプログラムは研修室で木工工作「箸作り」です。カンナ掛け、ヤスリ掛け、食用油の塗布までじっくり約 1 時間、皆さん満足のいく仕上がりとなりました。



最後は「自然観察」として、金太郎コースとどんぐりコースの短縮コースのウォーキングです。ムクロジのシャボン実演、カツラの薫り、林間広場から相模灘を望む景色などに足を止めながらのんびりと歩きました。

丸一日盛りだくさんの活動となりましたが、事故・怪我無く閉会となり、次回は更に参加者を増やしたいとのコメントいただきました。

(記 小国 一男⑬、写真 岡村 寛⑩)

◆ 緑のレンジャー講習会

第 4 回 実習「枝払い・間伐」

(ネットワーク活動鎌倉市公園協会様)

- 日 令和 6 年 10 月 19 日 (土) 10:00~14:00 晴れ
 場 鎌倉市散在が池公園 (神奈川県鎌倉市)
 参 13 名 (男 7 名 女 6 名)
 ス 公益財団法人 鎌倉市公園協会 千田様、西野様
 イ 安部⑤、上田⑫、鈴木⑬

第 3 回に行った対象選木作業に続いての実際の枝打ち・間伐作業を行った。昼食後は、1.5 時間程度で合計 4 種のロープワークの講習を行った。



前回選木時は講習内容をもとに受講生が自身で判断して、各グループ約 10 から 15 本を選定した。当日は、グループ全員で作業の優先順位を決定し、その順に沿って時間の許す範囲で作業を行った。作業は 3 班に別れ、各班 2~4 本を、広葉樹の間伐、幹から脇に出た大枝払い、低木の刈り取りなど、伐採、枝打ち、玉切り、林床整理まで、前回学習した内容を確認しながら行った。集合場所近くの桜の老木に、オオスズメバチの往来が確認され、注意をする中での活動となったが、幸い作業現場はハチの活動は確認されなかった。対象が



広葉樹で重心が安定しないことに加え、材が固いため、手鋸作業にてこずっていたが、作業終了

後は、陽が差し込むことで明るい森となっている仕上がりを見て、みな満足げな表情であった。



午後のロープワーク講習は、受講生は大変興味があるようで、受講生間で教え合いが始まるなど大変盛り上がった。簡単な資料があれば更に理解が深まったのではないかと反省も感じた。(記・写真 鈴木 秀明⑩)

◆ 相模原市津久井中央小学校 間伐体験

日 令和 6 年 10 月 24 日 (木) 10:00~13:30 晴れ
場 相模原市緑区澤井 大日野原地区
参 大人 10 名、子供 21 名、計 31 名
財 古舘様
イ L 松石⑬、齋藤⑧、岡村⑯、松浦⑯

1泊2日の体験学習の初日です。晴天の中、元気に5年生の子供達が到着しました。学校の教室での事前学習(松石L実施)を済ませて本日は体験学習です。

宿泊施設の「ふじの体験の森やませみ」から15分歩き現地に到着。3班に分かれて直径20cm程度のスギとヒノキの間伐を実施しました。全員交代で間伐鋸を曳きました。全員が受け口、追い口を入れました。最後はインストラクターの合図に



併せて皆で力いっぱいロープを引き、見事に倒れました。倒れた瞬間には元気な歓声が上がりました。枝払い・玉切りをした後にコースターを作り、作業は無事に完了しました。



昼食後、班ごとにグループミーティングを実施しました。事前学習で覚えている事を質問すると「地球温暖化」「緑のダム」などの発言があり、間伐体験は「楽しかった」「頑張った」などの感想がありました。学校引率の先生・やませみ職員の方にご協力頂き、子供達に印象深い体験になったと思います。



(写真 松石 藤夫⑬、記 松浦 正⑯)

◆ 日揮ホールディングス様

日揮グループ 水源林保全活動

日 令和 6 年 10 月 26 日 (土) 9:30~12:45 曇り
場 やどりき水源林
参 26 名 (大人:24 名、子供:2 名)
県 水源環境保全課 町田主査
イ L 小国⑰、上宮田⑪、牧石⑭、久次米⑯、田島⑰ 森本⑰

毎年数回行われる日揮ホールディングス様の森林保全活動、今回は秋のやどりき水源林にて開催され、26名の参加者が4種類の活動を行いました。

当日は曇りながら気温18℃前後のさわやかな現地に9:30集合、開始セレモニーでは恒例の「JGC体操」で心身ともにリラックスし、グループ別にインストラクターが先導し活動開始となりました。

「つる切り」グループ7名は、作業エリアである「生長の森20-2」を目指し約40分の森林ウォークから入ります。作業そのものは20分程度となりましたが、つる切り前後の木々の様子や林内の明るさの変化を実感していただいたと思います。

「自然観察ウォーク」には2名が参加。林間広場をスタートし林道コースを枕状溶岩まで上って行きます。この時期、当地の木々は色づきはじめてきたところですが、カツラやイロハモミジなどを仰ぎ見ながらゆっくりと散策しました。

「クラフト」から開始するグループは12名で、まずは丸太切り。ヒノキ、カツラを思い思いの厚さで切り出し、そこからカスタネットやスマホ置きなどを作ります。特にカスタネットは大好評で、皆さん丁寧に紙やすりをかけじっくりと仕上げていました。また、他の活動から戻った方も合流し一緒に工作を楽しんでいました。



「癒やし体験」には5名が参加。森の中での呼吸、寝ころんで見る樹冠、草木の香りなど、日常から離れた森の中でリラックスいただいた様子でした。

時間ぎりぎりまでクラフト工作をするなど名残惜しい中、12:45に事故・怪我無く無事閉会となりました。

(記 小国 一男⑰、写真 日揮様提供)

◆ 県民参加の森林づくり活動 間伐

- 日** 令和6年10月27日(日) 8:30~14:30 曇り
場 真鶴町岩(真鶴町県行造林)
参 大人49名
財 豊丸課長様、古館様 **看** 増田様
ス 小田原森林組合 2名様
イ L 牧石⑭、齋藤⑧、鈴木⑧、石川⑫、内田⑫、藤代⑬、伊東⑭、末原⑮、西村⑮、久慈⑯、小林⑯、小池⑰、杉山⑰、高谷⑰、藤田⑰、三好⑰

高さ10m以上、胸高直径18cm前後、36年生のヒノキ19本の間伐を行いました。

ふかふかの黒い土の匂いを感じながら、現場に到着したのち、参加者へ作業手順の説明、意見交換を交え、全員で伐倒方向を決めました。次に悪戦苦闘しながらロープ掛けを行ったのち、受け口を切り始めました。

鋸を引くだけですが思う通りにはいかない場面もありました。初めての参加者の方が多かったにもかかわらず時間とともに、私が切ります、交代してください、次は枝払いしていいですか?と一連の作業を見通しながら、ご自身で活動を探されるなど、間伐作業全体を楽しんでいただくことができました。



また、班によっては、難しい掛かり木になることもあり、フェリングレバーや滑車の掛け替えで解決するなど、様々な伐倒手段を体験いただくことができました。

作業後、伐採した空間より陽が差し、森が明るくなったことに気づかれました。木や森の健康的な成長という意味での間伐の意義や、間伐材取引による経済循環の仕組みについて、説明させていただきました。

帰りの集合場所までの移動時、受け口となったヒノキを、お風呂に入れるんだ、と楽しみにされる方、もっと早く間伐を体験したかった、これは本当に楽しいとおっしゃる方、初めて鋸を本格的に使ったが、なかなか難しい。今日もらったアドバイスを思い出しながら、もっといっぱい切りたいと意欲的になられた方もいら

っしやり、全体として、充実した時間となり無事終了しました。
 (記 久慈 真理⑯、写真 牧石 稔⑭)

っしやり、全体として、充実した時間となり無事終了しました。

(記 久慈 真理⑯、写真 牧石 稔⑭)

◆ 第41回 全国都市緑化かわさきフェア(街頭キャンペーン川崎)

- 日** 令和6年11月2日(土) 雨、
11月3日(祭・日) 晴れ
場 川崎市川崎区 富士見公園・芝生広場
参 74名(11/2:大人3、
11/3:大人39、子ども32計71)
イ 11/2(土) L 森本⑤、牛島①、安部⑤、鈴木⑤、山崎⑦、草野⑧、青木⑩、角田⑩、長尾⑪、松本⑪、池尻⑰、小国⑰、小俣⑰、小池⑰; 11/3(日) L 森本⑤、相馬⑤、安部⑤、鈴木⑤、草野⑧、村井⑨、青木⑩、角田⑩、長尾⑪、松本⑪、大原⑬、小国⑰、小俣⑰、小池⑰
財 11/2 倉野 様、11/3 江坂 様
他 11/2 シュロバッタ・草笛講師: 師井 様

今年7月に市制100周年を迎えた川崎市での記念事業。通常の「かわさき市民祭り」の代替イベントとして出店。(昨年は仙台市、来年度は岐阜市で開催予定)

初日は、朝の資材搬入時から終日の降雨、結果、お客さまはほぼ皆無となり天候リスクを思い知らされた。



翌日は、さすが晴れの特異日に恵まれたものの、午前は風も強くて苦戦。昼頃からいつもの賑わいに。流れとしては紙芝居(クイズ・水源涵養機能実験・景品配布)→丸太切り or クラフト(シュロバッタ・葉巻笛)で、「かながわ水源の森林づくり」をPRした。来年度は「かわさき市民祭り」で、リベンジを約します。

(記 森本 正信⑤、写真 大原 正志⑬)

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

「森の案内人」森の案内人は12月～2月はお休み。3月から再開します。

「やどりき水源林ニュース」

過去号は上記リンク先からご覧になれます。



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ **森のなかま原稿募集** ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受け付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp
河西 静夫
skasai0618@gmail.com

◇ **編集後記** ◇

★ 2年前のクリスマス時期にポインセチアの鉢を貰いました。居間に置いていたらだんだん赤みが抜けて緑色に変わりました。葉の量も多く元気な様子で、1年後赤くなるかと思っていたら緑のまま。2年後のこの冬も緑です。調べると屋内で赤くするには冬に向けて光の量を調節してあげる必要があるとのこと。どちらが自然に近いかなどと考えましたが、緑色も悪くないなと思ったりしています(小国)。

★ 改めてのご案内になりますが・・・広報部では、活動短信のほかにも、会員の皆様からの投稿を随時受け付けております。地元のイベント、花の見ごろなど形式に拘らずお寄せください。シャイな会員が多いと、広報部から原稿のお願いを逆指名させていただくかも・・・です(^_^)(小池む)

★ あけましておめでとうございます。本年も「森のなかま」本誌、別冊をどうぞよろしくお願いいたします。森林インストラクターの活動に関する情報収集と発信の場として、ホームページとの連携をより一層強くして行こうと考えています。よりよいものにするため、皆さんからのご意見、ご要望を随時受け付けています。

本誌記事にも掲載いたしました。昨年末に18期の皆さんが養成講座の受講を修了され、早くも活動にデビューしています。フィールドで一緒に活動するのを楽しみにしています。(河西)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku

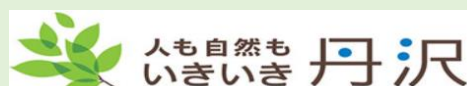


やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300
<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：河西 静夫
広報部：黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子
支援：大原 正志、吉田 郁夫

2024年度 森林探訪

主催：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

第2回 日向薬師から日向山・七沢温泉へ

終了

共催：丹沢大山自然再生委員会



行基が開山したという日向薬師と、周囲の寺林から
続く木もれ日の中の道を歩きます。

開催日：2024年11月30日(土)

申込締切：11月22日

集合：小田急伊勢原駅改札前 8:30 集合

解散：七沢温泉入口バス停 15:30 頃

コース：伊勢原駅北口バス停→日向薬師バス停(林)→日向薬師(林)→日向山山頂→亀石
→七沢温泉→七沢温泉入口バス停(林)(解散) バスで本厚木駅へ 高低差：330m

第3回 冬の多摩丘陵 黒川谷ツ公園・よこやまの道を歩く



多摩丘陵に広がる雑木林、湿地、里山を巡り、防人の
時代に思いをはせるコースです。

陽だまりで一足早い春を探してみましよう。

開催日：2025年1月26日(日)

申込締切：1月18日

集合：小田急多摩線はるひ野駅北口 10:00

解散：黒川駅 15:00 頃

コース：はるひ野駅(林)→黒川谷ツ公園→はるひ野駅(林)→よこやまの道→黒川駅(林)
高低差：100m

各イベントともに、

定員：50名(申込順) 参加費：1,500円(当日徴収)

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装

<申し込み>：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

1) QRコードで

2) e-mail : kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

3) 〒243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 へ往復はがきで

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。

お問い合わせ：TEL 080-8712-3804 担当 西岡

